

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900636		
法人名	医療法人社団 弘成会		
事業所名	コミュニティホームみさき		
所在地	船橋市二和東2-8-5		
自己評価作成日	平成28年12月7日	評価結果市町村受理日	平成29年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouseikai-gr.or.jp/">http://kouseikai-gr.or.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号
訪問調査日	平成29年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の一員として運営されており、毎週往診がされており、このことにより、他のGHよりも群を抜いて健康面や緊急事態時には、注意がなされていると思われま。一人一人の残存能力の活用につきましても、職員で共有し声掛けを多く行うことで活かしていこうとしております。長く自分らしく生活をしていただけるように支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「漫然かつ画一的なものにならない支援」や「介護の基本に戻る」と、「利用者の気持ちに引き合い寄り添う」ことをホームの指針として掲げている。開設して2年目のホームである。法人内の医療機関により24時間365日、安心して医療を享受できるサポート体制が整備されている。吹き抜けの天井から自然の光を取り入れた明るいリビングでは、利用者は思い思いに興味のある事を自分のペースで楽しみ、和風と洋風の二つのユニット間を利用者が自由に行き来するなど、安らぎのある穏やかな雰囲気を感じられる。食事の手伝いや洗濯物干し、居室の掃除など一人ひとりの残存能力の発揮につながる支援に力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現段階では、グループホームの意義について共有するように努めています。	経験の少ない職員の入社もありグループホームの違いや介護について勉強会を行い職員一人ひとりのスキルアップを図っている。運営方針の「自ら質の評価を行い、常にその改善を図る努力をする。」を意識した支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域のGH連絡会参加による情報の共有化や、運営推進会議によるご家族や包括関係者の参加をいただき、いろいろなご意見をいただき支援に反映しております。	グループホーム連絡会に参加し地域の情報を収集している。運営推進会議等にて在宅介護支援センターから公民館での介護事業所と地域活動をしている方々の紹介の案内があり参加し交流を深めている。近隣の中学生5人が福祉体験を行いその感想を学校内での福祉新聞として報告され、福祉や施設の認知に努めている。	近隣住民とのつながりが薄いのが現状である。今後、運営推進会議に出席されている民生委員や町内会長など地域の方を通じて認知症の勉強会や介護学習会を行うなど積極的な地域への働きかけが望まれる
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設している、デイサービスやショートステイの利用者様ご家族様などに、見学や入居相談等を行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の推進会議開催時に、ご家族様や包括関係者等に参加いただき、活動報告や行事報告、入居状況等の報告と、意見交換会を行っております。	年6回の運営推進会議の案内は全利用者家族に送り、毎回10人弱の家族代表が参加している。民生委員や町内会長の住民代表、有識者として近隣病院の地域連携室の出席もある。出席者からはヒヤリハットにより事故防止等の対策が直ちに取られている等の意見等がありサービスの質の向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	オープンして2年目なので、手探り状態が続いていますが、わからないことなどは行政窓口やGH連絡会などと、連絡を密にとり運営を行っております。	市の指導監査課とは介護保険の運用などについてその都度、相談や報告を行い連絡を密にとっている。グループホーム連絡会には市の担当者も出席する研修会があり連携を深めている。運営推進会議に地域包括支援センターの担当者も出席し、意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の方の日常行動について、各職員の情報や経験の情報共有や連絡会等の意見を取り入れながら、支援を行っております。	利用者の安心・安全を第一に考え、身体拘束はしないケアを実践している。問題があれば管理者やケアマネと相談して対応しOJTの中で勉強会を行い共有し周知徹底を図っている。車いすの座位が取れない利用者に対しご家族の同意を得て滑り落ちないようにすることもある。そのことを介護記録に記載している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならないもので、行われることはありませんが、言葉使いにも十分注意を払うように気を付けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見利用者や保護者が入居されておりますが、特に意識することなく一般の方と同様に、対応を行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、個人情報や虐待関係について特に説明を行っております。また、事故や延命についても重点を置き、説明をしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時にご家族と意見の交換を行ったり、往診時に同行をいただいております。また、イベントなどにも参加していただけるようご連絡しております。	家族の来訪時に日々のケアを伝えたり、連絡の少ない家族には電話にて近況をお知らせしている。往診時には体調の変化や眼科等の他の医療機関への受診希望について親身に対応している。クリスマス会、運動会等のイベントを行いその都度家族からの要望や意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議で意見を出して頂いたり、問題があればその都度、意見を出してもらい検討しています。	管理者は日頃の対応やグループホーム会議の中で職員の意見を聞きケアプランにつなげている。使用後のパット、リハパン処理や室温の管理等、具体的な提案を行い情報の共有の改善につなげており、職員を育てる取り組みが図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価シートをもとに、賞与などの算定に努めている。また、個人や職場のスキルアップのため、外部研修に参加を促しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まだまだ、技術的にも経験的にも足りないところがあるので、外部研修等を積極的に活用していきたいと考えます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の協議会や連絡会に参加することで、情報の交換や現状の在り方の見直し等を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い、家族や本人の要望の把握に努めている。また、日常の状況についても申し送り等で、情報の共有に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のアセスメントにない行動等について、細かに連絡を取ることで、本人や家族の不安の軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すでに介護保険をご利用の方につきましては、ケアマネに意見を細かに聞き、自宅在住の方にはアセスメントを丁寧にとり、介護レベルや本人の考え等に応じた支援ができるように対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の残存機能に応じて、日常の手伝いを行ってもらったり、一日を楽しく過ごして頂けるように職員で話し合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントの参加や体調の急変時など、出来るだけ近い存在でいたただけるように、連絡を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部からの来客者については、特に制限を設けることなく対応を行っている。本人の外出希望に対しては、家族同伴等をお願いを行っている。	入居する前にお付き合いしていた近所の方や同じサークルの趣味の会の方々が来られ楽しく会話をされている。職員は食後のひと時や入浴時に思い出の場所、思い出の人、趣味などを拾い上げる支援をしている。また馴染みのレストランへ家族と食事に行かれる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格も踏まえての対応となるので、一概に全員が一つになれるというのは難しい。出来るだけそのような機会を作る努力はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や次の施設等と、情報の共有化を図り、出来るだけ今までの生活を変えないようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し送り等で職員間での情報の共有を図り、その人らしい生活で過ごせるように努めています。	毎日の生活の中で気付いた利用者の言動などは「生活記録」にその都度職員が記入している。計画作成担当者は入居開始時の基本情報を基に、ケアプランにつながる利用者の思いや意向を生活記録や連絡ノートから抽出し、アセスメントの見直しを行っている。	利用者の表情の変化やさりげない言葉などを具体的に記載できるような「生活記録」の書式の工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを細かく行うことで、生活のこだわりや嗜好等を出来るだけ把握することにより、負担の少ない生活を送っていただけるようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知の進み具合や身体能力に対する変化について、見落としが無いようにすることで、主治医の先生の協力得て、よりよい支援ができるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族、主治医の先生等の意見をくみ上げ、介護支援専門員が定期的に作成を行っています。	計画作成担当者はサービス内容の個々の達成状況を職員から聞き取り、モニタリングを定期的実施している。利用者の要望や意向を大切に、面会時に家族からの意見や要望を聞き、往診医からの医療面での意見を取り入れケアプランを作成している。	職員が常にケアプランを意識して取り組めるように、個人の「生活記録」に短期目標・サービス内容を添付するなどの工夫が望まれる。また、ケアプラン原案を事前に職員に配布し、グループホーム会議で効率よく職員間で意見交換できるような取り組みにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡帳や一日の記録等をもとに、心身の状況把握に努め次の段階の支援となるように、行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護度の重さや保護者の受け入れ枠にこだわらない支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出等を行うように考えているが、なかなかはかどらない状況にある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週の往診を行ってもらっている。また、入居前に特定の医療機関との関係については、家族対応をしてもらっている。	毎週1回、往診医による受診が行われている。眼科などの専門医療機関へは家族の付き添いで受診している。事前に症状などの特記事項や家族からの相談事項を「往診リスト」に記載し、円滑で確実な受診支援を図っている。管理者が同席し、薬の変更や指示事項は「連絡ノート」に転記され職員間の情報共有が行われている。家族にもその都度電話で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師との連絡を密にとつて、対応をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に向けて家族やMSWより連絡があったときには、打ち合わせ等を行い現状把握に努めている。(サマリー等の資料いただく)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、終末医療等の対応の在り方の意識調査や、主治医との連携を密にすることにより、緊急時すぐに対応がとれるようにしている。	重度化した際の事業所で対応できる範囲や看取り体制について契約時に利用者、家族にわかり易く説明している。また、市の「リビングウィル」を利用して延命希望などの意識調査も実施している。重度化した際は、提携医療機関の往診医や併設のデイサービスの看護師との医療サポート体制により安心につながる支援が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現状では緊急時の連絡網を密にすることにより、緊急時の対応に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難路の確保の確認を職員に意識付けしています。	同建物階のショートステイと合同の消防訓練では、職員による毛布を使った搬送訓練や非常口のベランダまでの避難経路の確認が行われている。日中の火災発生時の消火・避難等の担当者や自動火災報知設備、火災通報装置の使用方法、防火対策のチェック表などが記載された消防計画書が整備されている。	夜間火災を想定した夜勤者の役割分担のチャート表作成や、近隣に住む職員を優先した夜間緊急連絡網の早急な作成が望まれる。また、夜勤者対象の夜間想定避難訓練やイベント時を利用して利用者の負担を少なくした避難誘導訓練の実施も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を尊重しつつも、堅苦しくなりすぎてもいけないので、和やかに過ごせるように努めています。	トイレ誘導の際は耳元で声かけを行い、オムツ交換や入浴時の着替え時などでは特に羞恥心に配慮した支援が行われている。人生の先輩として「さん」付での呼びかけを行い、馴れ馴れし過ぎず介護のプロとして利用者の立場に立って寄り添うことを心がけている。GH会議でプライバシー研修を行い職員のレベルアップが図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ寄り添うことで、本人の意思や要望を聞き出し、反映できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日を通してその人のペースで暮らせるように心がけておりますが、レクリエーションや体操など一緒に行うものについては、出来るだけ参加いただくように声掛けをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に女性の方については、ご家族とも連絡をとり、必要なものを準備していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの内容をお知らせすることで、楽しんでいただいたり、イベントなどでどのようなものがあるか聞いたりしています。	管理栄養士が考えた健康的で見た目も美味しい食事が厨房で調理され提供されている。かむ力の弱い利用者にはキザミ食が用意され、一人ひとりの体調に合わせた食事が用意されている。料理の取り分けや配膳など利用者の力に合わせて食事の準備に参加している。また、正月のおせち料理や雛祭りのちらしずしなど季節ごとの行事食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	変化があったときは、管理栄養士との打ち合わせにより、それぞれの能力にあった形態を提供させていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っていただくことで、口腔内の清潔保持に努めています。また、嚥下体操を行うことで誤嚥防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日のトイレチェックを行うことで、各入居者様のリズムを把握し、声掛けによりトイレでの排泄を促している。	車いす対応の広いスペースのトイレには掴まりやすい位置に手すりが設置され安心して利用できるように配慮されている。排泄チェック表により排泄間隔を把握し、利用者の表情や動きから排泄のタイミングを読み取っている。トイレでの排泄にこだわり、一人ひとりの力に合わせた声かけや誘導、介助が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週3～4日全員によるラジオ体操を行う。また、毎日牛乳を提供することで、排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は日にちでの管理になっていますが、本人の希望も取り入れることにより、少しでも喜んでいただけるように努めています。	利用者の体調や気分に合わせて、午前・午後の好きな時間に入浴している。浴室と脱衣所の温度差を少なくするなどの健康管理に努めている。寝たきりや拘縮のある利用者は併設のデイサービスの機械浴を利用するなど、個々に沿った入浴支援が行われている。転倒などの入浴時の危険を予想し職員間で指摘し合う「危機予知トレーニング」を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に年齢の高い方には、午前と午後横になり1時間程度休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が日にち別に個別セットをしていただき、それを職員が前日にセットしダブルチェックを行い服薬していただいています。また、毎週の往診時と変化があったときにDrへの連絡対応を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在は出来る方優先で、洗濯干しやコップ洗い床掃除等を行っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車の空いているときにドライブに行ったり、デイが休みの時はデイでカラオケを行ったりしています。	家族や職員と一緒に近隣のコンビニカフェでお茶を楽しんだり、スーパーへの買い物外出が時々行われている。五感の刺激のために、ベランダでの日光浴を楽しんでいる。バラ園や紅葉散策など季節ごとのドライブ外出や回転ずしへの外食行事も時々行っている。近くの神社への初詣も計画されている。	事業所周辺の毎日の散歩や屋上の花壇で外気に触れる機会をつくるなど、戸外に出かけられる更なる支援が望まれる。また、利用者の希望を取り入れた外食行事、外出イベントを増やしていくことにも期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方については、小遣い程度を自己管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が使える電話がありませんが、要望を聞き代行でご家族の方へ連絡をさせていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オゾン水を用いることにより、消臭や感染予防も行っています。	吹き抜けの天井からはリビングに自然の光が差し込み、明るく、居心地の良い空間づくりが感じられる。和風と洋風の2つのユニット間を利用者は自由に行き来し、一緒にラジオ体操や歌を楽しんでいる。畳のスペースやゆったりしたソファを設置し疲れた時にはいつでも静養できるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ同レベルの方を隣席にすることで、日常会話が出来ようになり全体が会話に参加できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部の方に関しては、思い出の品を飾られたりしています。	これまで自宅で愛用していた家具や人形、アクセサリ、家族の写真やアルバムなどが自由に持ち込まれている。転落事故防止のためにベッドの高さの調整や転倒防止マットの設置など一人ひとりの安全を考えて支援している。居室のエアコン使用時には扉を開けて使用するなど、温度や湿度の管理に特に注意を払っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特別なつくりではなく、一般的なつくりとなっている。安全面では角のないテーブルを用いたり、目の届きやすい配置になっています。		